

## JGS 宝石勉強会「鑑別機関が使用する最新の検査装置の見学会」報告

アングローズアンドカンパニー株式会社

代表取締役 堀内信之

JGS 副理事長／広報部長

年末差し迫る 2017 年 12 月 19 日火曜日午後 13 時開始の勉強会にもかかわらず、21 名の参加者によりテーマ O の勉強会は開催されました。

勉強会会場そして見学会場としてご協力いただいた株式会社中央宝石研究所様には心から感謝申し上げます。



テーマタイトルから想像が付くように、大変興味深いだけではなくラボの深層まで触れることができる貴重な機会とあって、ウェイティングリストができるほどに人気の勉強会となりました。今回ご参加できなかった方々は次回の計画にご期待ください。

勉強会開会にあたり、お忙しい中にもかかわらず吉澤博幸社長様からご挨拶を頂けたことに感謝申し上げます。

続いて中央宝石研究所の業務内容について北脇裕士博士からご説明を頂いた後に、7 名 3 グループに別れてラボの見学ツアーへと移りました。

宝石鑑別室→ダイヤモンド鑑別室→ラマン分光検査器→ICP MS 機にて見学と説明を頂きました。「百聞は一見に如かず」とはこのこと、と思いきらされる貴重な時間となりました。見学中の館内の撮影は禁止されており、また参加者からの質問に対しても現場ならではの臨場感あふれるお答えを頂け、全てが、参加しないと得られない体験となりました。中央宝石研究所社員の皆様、本当にありがとうございました。そして北脇博士におかれましては事前の準備を含め、当日はほぼ一日を JGS 勉強会のためにお時間を割いて頂き、参



加者一同博士の知識のみならずお人柄に最大の敬意を表します。中央宝石研究所の皆様、これからもよろしくお願いいたします。



参加者の方々はベテランの方々ばかりでした。鑑別方法とその手順、鑑定手法などのジェモロジストまたはジュエラーとしての知識と経験が豊富な方ばかりであったにもかかわらず、勉強会後のアンケートには本当に機械を動かして説明をして頂いたことや人手のかかる現場を目の当たりにして学べた事に一層自信を深められたコメントで埋められていました。このような機会提供こそが日本宝石協会が所属協会員への最大

の喜びとなることも確信できました。

アンケートに次のようなコメントがありました。

「鑑別するにあたり人間の目より今はほとんどが検査装置によるもので、それも何重にも検査を重ねて分析してゆく事に驚いた。人間の目による分析はもう必要なくなるのか。」

AI、IoT と騒がれる今日、誰もが抱く不安ではないでしょうか？ダイヤモンドの鑑定を全てオートメーション化するラボをサリン社がイスラエルに 2 月に開業します。

[http://www.diamonds.net/news/NewsItem.aspx?tc\\_dailyemail=1&ArticleID=59791](http://www.diamonds.net/news/NewsItem.aspx?tc_dailyemail=1&ArticleID=59791)

しかし、鑑別鑑定という作業は機械化されたとしても、その宝石とジュエリーの価値を創出し伝承することは未だ人間から手放すことはできないと思います。そのためにも知識と経験を併せ持ったジェモロジストとジュエラーが必要となり、未来に踏み込むほどにその必要性は高くなるのではないのでしょうか。

JGS の活動は未来に繋がる活動と信じています。